

燦々

SANSAN
光り輝く



准組合員イベント「秋のいも掘り体験」開催

天使大学の学生がとまこまい広域管内で農作業体験
厚真・早来・追分の青年部盟友が受け入れる

特集

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.273



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272-241
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
FAX 0145-273-941

令和7年9月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomai.co.jp
メールアドレス
info@ja-tomakomai.co.jp

印刷 株式会社須田製版

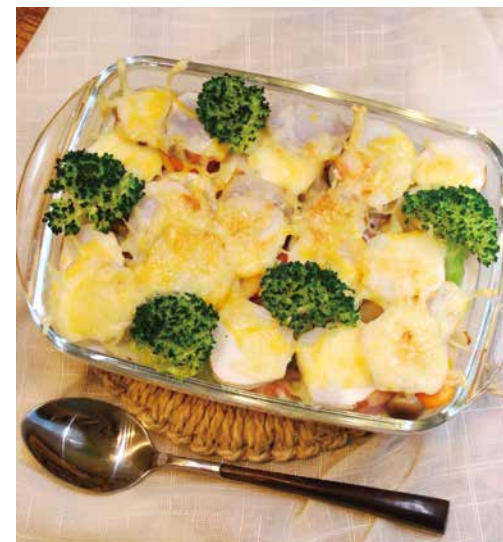
休日に丁寧に作りたい、栄養たっぷりごほうびレシピ

①調理時間
30分

JAさが 中部地区女性部
(佐賀県) が作りました！

ホクホク食感♪ 体温まる 里芋グラタン

小麦粉やジャガイモの代わりに
里芋で低カロリー！具材も多く
食べごたえバツグンです。



材料（2人前）

・タマネギ	1/2個	・ブロッコリー	適量
・ニンジン	1/4本	・牛乳	100ml
・シメジ	1袋	・バター	10g
・鶏肉またはベーコン	100g	・塩コショウ	少々
・ニンニク	少々	・チーズ	適量
・里芋	400g		

- 01 材料を食べやすい大きさに切り、バターとオリーブオイルで炒め、塩コショウをする。
- 02 里芋を600wで5分間レンジで加熱し、皮をむき、薄切りにする。
- 03 飾りのブロッコリーを湯がく。
- 04 グラタン皿にバターを塗り、①の材料を入れ、上に里芋・牛乳を入れる。飾りのブロッコリーを乗せてチーズをかけ、200℃のオーブンで焼き目がつくまで10～15分焼く。



ワンポイント！

里芋はレンジで加熱すると簡単に皮をむくことができます。小麦粉を使わなくても、里芋と牛乳でホワイトソースの代わりになりますよ♪

No.273 CONTENTS

- 01 特集 天使大学の学生が
とまごまい広域管内で農作業体験
厚真・早来・追分の青年部盟友が受け入れる
- 03 カメラレポート
- 07 ・JAとまごまい広域南瓜生産部会穂別支部
とまごまい広域産箱南瓜の受入開始
・JAとまごまい広域馬鈴薯生産部会
生食用馬鈴薯(メークイン)選果開始
- 08 ホクレン苫小牧支所との意見交換会開催
米の話題を中心に意見交換
- 09 理事会報告
- 10 期待の農力 長谷川聖子さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 配置薬 新商品&おすすめ商品のご紹介

裏表紙 休日に丁寧に作りたい、栄養たっぷりごほうびレシピ



JAとまごまい広域は8月下旬、厚真町鯉沼の工藤英暢さんの圃場で准組合員イベント「秋のいも掘り体験」を開催。総勢79名が参加した。



長ネギを結束(追分:奈良さん圃場)



カボチャの収穫で笑顔を見せる学生(早来:高林さん圃場)

「北の食物研究所」援農ホームステイ

8月25〜26日、北海道農協青年部協議会と天使大学学生サークル「北の食物研究所」がコラボした援農ホームステイ事業に同サークル所属の大学生4名が参加、早来・追分支部で2名ずつ受け入れた。

同事業は農作業体験や生産者交流を通じて食への感謝の念を育むとともに、生産者を含め多くの人々の苦労や努力によって支えられていることへ理解を深めることを目的に実施されている。

今回大学生を受け入れたのは、早来支部の高林隼人さんと追分支部の奈良亮太郎さん。高林さんは早来瑞穂地区で水稲や畑作物、野菜等を生産し一部有機栽培

を目的に、天使大学及び藤女子大学の料理サークルに所属する学生を対象に、令和4年度より実施している。

今回の受け入れで2名の学生は馬鈴薯とカボチャの収穫を体験。時折小雨が降ったり晴れ間が覗いたり不安定な天候の中、高林さん指導のもとで収穫手順を学びながら慣れない作業に汗を流した。一方の奈良さんは追分美園地区で新規就農を果たし、メロン・カンロ・長ネギ・白菜を生産する盟友。2名の学生は長ネギの根切りから結束、箱詰めなどの一連の作業を体験。自ら詰めたネギの箱を選果場へ出荷する際も同行した。農作業や出荷と初めての経験に終始目を輝かせていた。

作業を終えた学生4名は、高林さん宅で一泊。夕飯にはバーベキューで炭を囲み、農業に関する話題や学生生活について語り盛り上がるなど充実したホームステイとなった。一泊二日を過ごした学生は、農家の仕事や生活を体験できてよかった」と語り、貴重な経験を振り返った。

学生と厚真支部の盟友(厚真:高橋さん圃場)



天使大学の学生がとまごまい広域管内で農作業体験 厚真・早来・追分の 青年部盟友が受け入れる



選果基準を学生に説明する東海林さん



イチゴの収穫(厚真:東海林さん圃場)

JAとまごまい広域青年部は8月下旬、天使大学の2つのサークルより学生の農作業体験及びホームステイを受け入れ、同青年部の厚真・早来・追分支部が協力した。

料理サークル「Dolce」農作業体験

8月19日、日胆地区農協青年部協議会(以下、日胆青協)が主催の農作業体験事業に天使大学の料理サークル「Dolce」所属の大学生5名が参加、農作業体験を行った。

日胆青協の渡部大樹会長と末政知和青年部長の所属する厚真支部での受け入れとなった今回は、両名帯同のもと4名の盟友圃場で各種体験を実施。

共栄地区の東海林勇人さんのイチゴハウスでは収穫作業を体験、自ら収穫したイチゴを選果しパック詰めた。収穫適期の判別と選果基準について説明を受け作業にあたった学生は、悪戦苦闘しながらも終始楽しそうに様子で一生懸命に励んでいた。同地区で畑作農家を営む渡部会長宅ではトラクターに試乗。枝豆が完熟前の大豆であることや砂糖の原料となるてん菜を初めて観察、てん菜を試食した際はその甘さに驚きを隠せない様子であった。昼食後は幌内地区、高橋健太さんの圃場でミニトマトを収穫。学生たちは収穫用のかごを赤く実ったミニトマトで一杯にし、満足そうにしていた。同地区の工藤純輝さんの圃場ではカボチャの箱詰めを見学。安定した品質を保つために収穫後も手の込んだ管理作業があることを目の当たりにした。一日を終えた学生は「とても楽しく体験させていただいた。また来年も訪れたい」と感想を語った。

同事業は地産・国産の農畜産物について、生産現場と生産者の思いを把握し将来の糧にしようということ

早来

安平町耕畜連携事業

デントコーン収量調査

J Aとまこまい広域は8月19日（火）、胆振農業改良普及センター協力のもと、安平町耕畜連携事業のデントコーン収量調査を安平町8件の圃場にて行った。この事業は、酪農家と耕種農家が連携してデントコーンの作付けを行い、乳脂肪の向上及び輪作体系の確立を図り、地域内での循環型農業に挑戦する取り組みに対して支援を行うものである。

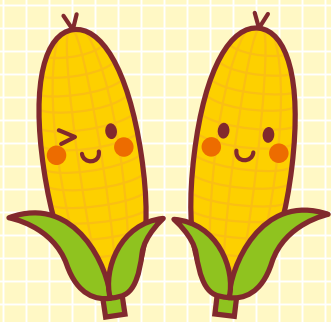


▲300cm以上ある草丈



▲重さを計っている様子

6月17日（火）に生育状況を調査し、今回は収穫前に収量と熟度を調査した。今年のデントコーンの生育状況は、耕畜連携事業に限らず、気温が高く日照時間が多かったため、例年より早く進んでおり、5日程収穫が早まる見込みである。収量についても、例年通りを見込める調査結果となった。



広域

准組合員利用者懇談会開催

動物との触れ合いを通じて、J A事業の理解促進へ

J Aとまこまい広域は7月26日、長沼町のハイジ牧場で准組合員を対象に利用者懇談会を開催し、9組23名の親子が参加。ヤギやアルパカ、羊など牧場内の動物へのえさやり、牛の搾乳体験などを行った。

同イベントは次世代を担う子育て世代に焦点を当て、農業の魅力発信とJ A事業の理解促進、利用するうえで感じている意見を組合事業に反映することを目的に、令和5年より実施している。

同牧場では多種の動物が飼育され、ホルスタイン種のほか日本短角種やアングラ



▲えさやりの様子



▲参加した親子で集合写真

ス種、テキサスロングホーン種など国内でも希少な牛をみる事ができる。参加者は手渡されたえさやり用の固形キューブを各々動物に与えるなど触れ合いながらツアーを楽しんだ。

昼食時には同J A安平地区担当理事で牧場親会社の金川幹夫社長が駆け付け「ハイジ牧場へきたこの日をきっかけに農業に興味を持ってもらえたら」とあいさつしたほか、質問コーナーでは参加した親子から動物や農業に関する質問が挙がり、金川社長は丁寧かつ熱心に答えていた。

穂別

穂別支所生産者交流会

地域農業の活性化にむけて 組合員・役職員が交流

8月1日、穂別支所選果場にて「穂別支所生産者交流会」が開催された。

この交流会は組合員相互及びJ A役職員と交流することにより、地域農業の活性化とJ A事業の利用度向上を図ることが目的。例年、交流会の前半で親睦球技大会が実施されていたが、近年の参加人数の減少や炎天下で競技を行うリスク等を考慮した結果、競技を行わずに親睦会のみ開催に至った。

また、親睦会の開始時間を18時からに遅らせたことで、今まで出席出来なかった人々も参加し、会場には組合員・J A役職員合わせて、過去最高の120名が集まった。

全員の手にはビールが回ったタイミングを見計らって、来賓の石橋公昭代表理事専務より乾杯の挨拶が行われ、親睦会が始まった。お酒も入り、賑やかな雰囲気の中で、笑顔と会話が弾み、参加者は思



▲石橋代表理事専務より乾杯の挨拶



▲会場のあちこちで笑い声が飛び交う



▲会場は大いに盛り上がりを見せた

い思いに楽しみ、笑い声があちこちで響いていた。

白老

白老牛農産物フェア開催

白老支所夏の恒例イベント

J Aとまこまい広域白老支所は8月2日（土）に毎年恒例となっている白老牛農産物フェアを開催した。

白老牛農産物フェアは毎年8月と12月に開催されており、8月は主に焼肉用の牛肉を用意している。

当日は小雨のばらつく天気だったが、開始一時間前から白老牛やJ Aとまこまい広域産の農産物を買求める人たちが集まり始め、フェアの開始を今かと待っていた。

今回用意した牛肉は吉田隆三さんが生産したA5等級の白老牛。テナント内のショーケースには目玉商品のヒレステーキ肉やサーロインステーキ肉を筆頭に、焼肉用の商品が大量に陳列された。

農産物コーナーには大人気のメロンをはじめ、スイカやとうもろこしなど様々な農産物が並べられた。

開始の号令と共に販売が開始されると、わず



▲牛肉販売コーナーの様子



▲農産物販売コーナーの様子

か30分後に白老牛の人気部位や一部農産物が売り切れるなど盛況であった。

たんとうまいやおふくろみそ、ハンバーグやカレーなどの加工品を目当てに来場されるお客様も多く、賑わっていた。来場された女性の方に話を聞くと「毎年楽しみにしています。普段なかなか食べる機会が無いので、こういったイベントがあると嬉しいです。ステーキも買えたし農産物コーナーでスイカも買えたので大満足です」と嬉しそうに話してくれました。

会場には多くのお客様が来場され、皆笑顔で会場を後にした。

厚真

青年部厚真支部が道内視察研修を実施

ホクサン株式会社で農薬の知識を深める

8月7日、青年部厚真支部（支部長 藤本貴則）の道内視察研修が実施され、研修農場生を含む盟友17名が参加した。同研修は地域農業の担い手の交流を図るとともに、知識を深め厚真町における農業振興に寄与することを目的に開催されている。

今年度の視察先はホクサン株式会社を選定し、主に水稲と小麦における農薬について研修を行った。除草剤において散布後の過程や処理の有無で除草効果にどれほどの差が出るのかを学んだ。水稲用



▲農薬について学ぶ部員

ではレオセータとレプラスギアの試験事例、小麦用ではガルシアフロアブルの試験事例の紹介を受けた。また、散剤工場と液剤工場の見学を行い、最新設備の導入や立体的な機械配置で効率的に製品製造を行っていることを学んだ。研修中には同社製品の使用方法等について質問を行うなど熱心に研修を受けた。

視察を終えた青年部員は「今回の研修を通して、農薬に欠かせない農薬について改めて学ぶことができ、今後の営農に活かせる良い機会だった」と話した。



▲研修後に集合写真を撮影

厚真

青年部厚真支部 活動推進委員会

交流事業「顔見せよう会」開催

8月22日、JAとまこまい広域青年部厚真支部（藤本貴則支部長）は、昨年に引き続き「顔見せよう会」を開催した。同JA本所倉庫内にて開催され、盟友23名と若手職員19名が親交を深めた。

同事業は青年部とJA若手職員が交流を通じ、親睦を深めるとともに、地域農業を守るために信頼関係を築くことを目的として開催されている。青年部内の活動推進委員（尾形司朗委員長）により企画・運営され、当日には同委員が集まり、火をおこしたり座席を並べるなど会場の



▲会話をを楽しむ参加者たち



▲ビンゴ大会を楽しむ様子

設営にあたり、交流会が始まると炭火を囲みジンギスカンを食べながら青年部とJA職員が農業の話だけでなく、他愛ない話をするなど会話に花を咲かせ、和気あいあいと過ごした。また、毎年恒例のビンゴ大会が開催され青年部が持ち寄った豪華景品をめくり白熱した様子だった。

参加したJA職員からは、「和やかな雰囲気の中、お互いの親睦を深めることができた。この交流を通して一丸となつてより良い地域農業を目指して精進していきたい」と意気込みが語られた。

広域

若手職員による農作業研修

生産現場を肌で感じ、業務に生かす

JAとまこまい広域では8月6日と8日の2日間、新人職員の農作業研修を実施。4月に入組した厚真支所営農課の島田和樹職員（24歳）が、厚真町幌内地区で水稲とミニトマトを中心に経営する高橋有悦さん（60歳）の圃場でミニトマトの収穫及び管理作業を体験した。

島田職員は収穫とわき芽取り、葉にまぶす日光を当てるため蔓を斜めに下げる作業を担当。2日間でハウス2棟分を収穫した。研修を終え「栽培方法や管理作業に関する知識習得のほか、農家さんと近い距離で関わる良い機会だった。この経験を今後の業務に生かしていきたい」と感想を語った。



▲蔓を斜めに下げる様子

同JAでは、採用から退職まで階層別に必要となる知識や技能習得を目指し教育研修を実施することが人事労務規定で定められている。同研修は入組3年目までの職員が、管内の耕種及び畜産農家のもとで農作業を行い、生産現場について理解を深め、組合員との交流を目的に実施している。

作業を指導した長男の健太さん（33歳）は研修の受入れについて「手伝いに来てくれるのはとても助かる。職員にとっても農家にとっても良い取り組みだと思う」と振り返った。



▲収穫の様子（厚真町で）

広域

営農職員向け施肥指導力向上研修会を開催

施肥設計のノウハウを学ぶ

JAとまこまい広域は8月4日、営農職員向けの施肥指導力向上研修会を開催し、本支所より8名の職員が参加した。土壌と肥料の基礎知識を学び、実際の土壌分析結果から施肥設計を実践した。

前段でホクレン苫小牧支所生産資材課の山谷課長が講師として、管内土壌の特徴や肥料に関する基礎知識の講義を行い、窒素・リン酸・カリウム等の作物が必要とする要素とそれに対応する肥料について理解を深めた。また、pH値が低いと作物の養分吸収率が大きく低下すること、石灰質肥料の投入によるpH値矯正が土壌改良において必須であるなどの重要事項を学んだ。

講義後、分析結果を読み取り施肥設計を実践。同JAクリーン農業係が指導にあたった。参加した職員は、pH値の矯正を大前提とした設計を練習。作物ごとの必要養分量をチェックしながら、肥料の成分内容と照らし合わせて、生産者が現実的に施用可能な肥料を設計した。

参加した本年採用の島田和樹職員は「研修内容は難しいものであったが、組合員に説明するときの根拠となる知識や施肥設計方法を習得できてよかった」と語り、今後の指導へ意気込んだ。



▲クリーン農業係による指導の様子



▲設計を実演する上田課長補佐

ホクレン苫小牧支所との意見交換会開催 米の話題を中心に意見交換

JAとまこまい広域は8月13日、厚真町の本所総合営農センターでホクレン苫小牧支所との意見交換会を開催した。ホクレンとJA役職員及び青年部、女性部ら総勢64名が出席し、米に関する話題を中心に議論を深めた。

堀弘幸JA組合長とホクレン同支所の荏司実支所長のあいさつで開催された意見交換は、販売・物流部門と購買・営農支援部門に分けて、各担当より重点取り組み事項の説明後に質疑応答、意見交換の時間を設けるスタイルで実施された。

ホクレン東京支店の菊地修次長が米穀をめぐる現況と今後のシナリオ、7年産米概算金の設定について説明。政府による生産調整の見直しや増産、価格安定を見込んだ備蓄米や輸入に関する言及を踏まえた現段階の情勢と、備蓄の売れ残り分買戻しといった変動要素を複数抱える7年産米の今後の需給見通しに係る試算を示した。また、概算金の設定について本年も集荷競合が予想される中、消費者へ安定的に米を届けるべく、集荷を最優先とした最大限の概算金設定を行う方針を示した。最終的に予想される、出来秋もしくは新米出回り後の価格下落、当分は需給ひっ迫が継続するなどのシナリオに対し、最大限の概算金設定や販売先への産地状況の理解醸成といった対応策を述べた。出席者（生産者）からは「商系業者との価格競争をするのではなく、農業者が継続して営農



▲あいさつをする荏司支所長



▲意見を述べる西島隆行安平地区代行政事

していくため、現在の物価高や生産費高騰などの情勢を踏まえて『妥当な米の値段はいくらだ』と根拠とともにメディアを通じて発信して欲しい」と声があがった。

畜産関連では和牛相場は需要期まで低調傾向が予想され、生乳需給については生産量が前年を上回る推移を見せる一方で乳製品の値上げ等の影響により需要が減少する見込みが説明された。営農支援では現場に即したスマート農業技術について、ホクレンRTKシステムの安定稼働と利用拡大に向けた取り組みが説明された。過去に発生した不具合に対して、24時間体制でシステムのリセットが可能な体制の構築、サーバーの増築によるバックアップ体制の強化がされたほか、ドローン専用サーバーの設置について実証調査中であることが示された。その他、暑熱対策として遮熱フィルムの比較試験や外気導入機の効果検証、人材確保へ向けた各種研修会などの支援事業を紹介、出席者より「QRコードを活用した集出荷システムを活用しているJAがあることを目にした。当地区でも導入の予定はあるのか」「RTK基地局の機器老朽化が心配される。連携を取りながら更新に向けご協力をお願いしたい」との意見が出た。

終始白熱した意見が飛び交った同会は石橋公昭専務のあいさつにより閉じられた。



▲末政知和青年部長による質問の様子



▲米関連の質疑に回答する菊地次長

【穂別】JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部 とまこまい広域産箱南瓜の受入開始

8月6日より、むかわ町穂別地区の箱南瓜出荷が始まった。

JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部（石崎憲一支部長）では、ほっこりうらを主軸にえびす、味早太等の品種を作付しており、関西・中国・四国地方を中心に出荷される。今年度の穂別地区の作付面積は、過去最高の310haとなっており、その内、箱南瓜は約114haの出荷を計画している。

同日には、穂別支所選果場にて目慣らし会が実施され、JA職員から収穫・選別・出荷の注意点について説明するとともに、見本の南瓜



▲目慣らしの様子



▲出荷された箱南瓜

を見ながら規格などについて生産者と確認した。

石崎支部長は「これから出荷最盛期を迎えるにあたり、畑をよく観察し、適切なタイミングで収穫に臨んで欲しい。規格の統一を徹底することで、市場や消費者への信用を維持していきたい」と話し、「連日猛暑が続いているので、体調に気を付けながら頑張ってください」と熱中症への注意を呼びかけた。

当部会穂別支部では今年度取扱数量約4,270t、販売高492,400千円を目標に9月上・中旬をピークに10月中旬頃までリレー出荷が続く。

JAとまこまい広域馬鈴薯生産部会 生食用馬鈴薯(メイクイン)選果開始

JAとまこまい広域馬鈴薯生産部会は8月21日、厚真町上野地区の馬鈴薯選果施設にて生食用メイクインの選果作業を開始した。本年産の出荷は1528.8t、販売高145,172千円を目標としている。

約55haのメイクインが作付けされている厚真町では8月中旬より収穫作業が始まり、選果場職員による原料の受け入れを実施。今回の初選果では生産者2件分、約11tが選果された。同JA穂別・早来支所管内でも生産されている。

作業はハードコンテナで持ち込まれた原料を選果ラインに乗せ、

1次選果で腐れの選別、2次選果で取り残しの腐れや傷、病害虫等、奇形などを選別する。それらを通じた原料がさらにA・B品に仕分けられ箱詰めされる。同部会では、各段階で人の手や目による選別、何重ものチェックを徹底することで高品質で安全な選果を行っている。製品はJRコンテナやトレーラーにより、西日本を中心に出荷される。

収穫は8月下旬にピークを迎え、10月ごろまで選果作業を行う予定だ。



▲原料受け入れの様子(厚真町で)



▲選果の様子(厚真町で)



▲箱詰めされたメイクイン(Lサイズ)

さんさんかがわ 期待の農力



全てのメロンに
想いをこめて...



は せ がわ きよ こ
長谷川 聖子さん(40歳) 安平町追分豊栄

農業を志したきっかけ

昭和60年2月7日、北海道札幌市で生まれた長谷川さん。札幌啓北商業高等学校を経て北海道武蔵女子短期大学を卒業後、銀行員として歩みをはじめた。

東日本大震災をきっかけに、ふと将来のことを考えるようになり、食の安全や、どのような環境で子育てをしていくか。夫婦で数年掛けて何度も話し合いをした結果、自営にて生計を立てて行こうと決意。そんな中、札幌で開催されていた就農フェアへ足を運んだ長谷川さんは、追分地区メロン農家の高橋康二氏と出会い、「アサヒメロンに掛ける熱意や情熱に心を打たれました」と話す。

意しましたと当時を振り返った。実際に就農して
初年度は、高橋氏の元で研修をスタートさせ、メロン作りのノウハウを学んだ。2年目からは実践農場にて更に経験を積み、3年目で晴れて就農を果たした。

長谷川さんは「毎年同じように管理していても同じ作物ができることはない農業の難しさを感じ苦勞することもあったが、メロンと向き合っている時間、農業に没頭できている時間が好きで、日々癒やされています。芯摘み作業は、メロン栽培において重要で欠かせない作業ですが、全てやり切った時は達成感とやりがいを感じます。私にとって農業は天職です」と話してくれた。

今後の目標

現在は、メロンハウス100メートルを8棟「ルビアレッド」「ディアラ」「レッド113」を栽培している。

今後はハウスを2棟増やし2回作を含め13棟分の作付を計画している。

「これからも農業を楽しみ、情熱をもって取り組んでいきたい。また、たくさんの方の消費者の方にアサヒメロンを食べていただけたら、夫婦で協力し糖度の乗った高品質な追分アサヒメロンを届けていきたいです」と農業への熱い思いを話してくれた。

理事会報告

令和7年8月13日(水)に総合営農センターで第8回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。



1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 8月1日現在、農作物の作況について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得・処分について
5. みのり監査法人期中監査Ⅰ結果概要について
6. クミカン帳票のデジタル化について
7. 准組合員イベント「秋のいも掘り体験」について
8. 労働保険事務組合の事務処理改善について
9. 令和7年度家畜共進会・枝肉共励会の結果報告について
10. 移動購買車導入に係る見積結果について



1. 令和7年度産米集荷販売取り組み方針他について
2. 令和7年度特定米穀の集荷取扱要領について



議案第 1 号 出資の減口と譲渡について

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

水田の土づくり

1 管内の水田土壌の特徴

JAとまこまい広域で分析された土壌分析データより、管内の水田土壌は①有機物が少なく可給態窒素（地力）が低い、②CEC（肥料持ち）が低い傾向があります。水稻は地力で獲る作物と言われているように収量向上のためには有機物投入による土づくりが重要になります。

2 稲わらを有効活用

収穫後の稲わらを効率的に分解させることで地力の向上（腐植含量向上、カリ補給）が期待できます。稲わら分解を促進させるためには以下を組み合わせることが有効です。

- (1) 収穫後、ほ場が乾き地温が高いうちにすき込む
- (2) 稲わらをできるだけ細かくし、土壌微生物が活発である土壌5cm以内にすき込む
- (3) すき込み時にアルカリ分を添加する（ケイカルなど）
- (4) すき込み時に土壌微生物の活動を活性化させるために窒素分を添加する

秋の施用例）ケイカル基準量（または慣行施用量）＋ 硫安10～20kg/10a

※厚真町で実施した試験では、無処理区と比較してケイカル施用のみで4%、ケイカル+硫安10～20kg/10a施用で12.4%程度、稲わらの分解が促進されました

3 高温年は特にケイ酸が必須

高温年の水稻は茎が軟弱化し、下位葉の枯れ上がり及早まることで倒伏が発生しやすくなります。また、登熟期間の転流阻害などにより登熟が急速に進むことでタンパク質含有率が上がりやすくなります。

ケイ酸を積極的に投入することで、①受光態勢の改善による光合成・転流促進、②茎や葉の剛直化、③下位葉の枯れ上がりの抑制、④根の活力向上、⑤水利用効率の向上などの効果があり、いずれも高温条件時に効果を発揮します。R6の実態調査では土壌中のケイ酸含有量が高い水田ほどタンパク質含有率が低くなりました（上図）。また、高温年でも高収量・高品質の水稻生産を行っている管内の農業者は積極的にケイ酸資材を投入しています（下表）。

ケイ酸分を継続的に投入し、土壌含有量を高め、異常気象に強い土づくりを目指しましょう。

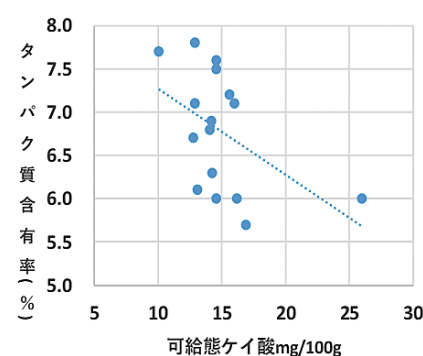


図 土壌中の可給態ケイ酸とタンパク質含有率の関係
(R6厚真町、安平町、むかわ町 計16戸)

表 優良農家のケイ酸資材施用量 (R5)

農家	資材名	投入量
A	ケイカル	80kg/10a
B	スーパーミネカル	60kg/10a
C	スーパーミネカル	100kg/10a
D	スーパーミネカル	100kg/10a

ワンポイント営農情報

広域の土壌・気候に合った肥料を作りました!!

JAとまこまい広域専用 豆類BB肥料(myBB)の紹介

緩効性肥料

くみあい
BB肥料
苦土入り
〔被覆肥料(JコートS30)入り〕
BB
S622Js
供給 JA ホクレン
正味 20kg
豊作のまず手はじめは土づくり

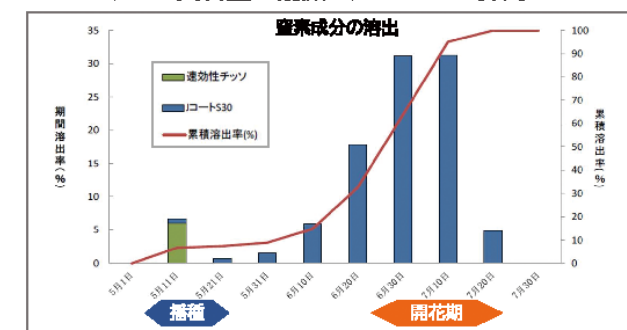
Jコートとは？

- ・次世代のコーティング肥料！
- ・優れた溶出コントロールにより、作物の生育に合わせてチッソを供給！
- ・従来の銘柄と比較して、被膜のプラスチック使用量を約40%削減！



BB豆622Jの特徴

- ・追肥が省力できる基肥一発タイプの肥料！
- ・高チッソ肥料であり、施肥作業の効率化が期待できる
- ・開花期以降にチッソが供給され、豆の肥大を促す！
- ・プラスチック資材量を削減したJコートを採用！



保証成分(%)		リン酸	カリ	クド
窒素	アンモニア態			
16	1	12	12	3

被覆原料：プラ 圃場外に流出注意 ご注文・お問い合わせはJAまで！

1. Jコート肥料で、成分の溶出をコントロールし、効率的に肥料を吸収できるようになっています！

2. 開花期終わりには、窒素成分が100%溶出されるため、緩効性ですが収穫前まで作物が青くなる心配はありません。

肥料とりまとめ用紙にも記載してありますので、ご確認ください。

必ず土壌診断分析を実施、土壌改良を適正に行った上でご使用ください。
リン酸が基準値以下のほ場で、収量が劣る可能性があります。

前作がてん菜、水稻、南瓜ならより効果的に生育します。

ご注文・お問い合わせはJAまでお願いいたします。

JA 配置薬 新商品&おすすめ商品のご紹介

みなさんの健康と美容のことは気にしていますか？
新しいお取り扱い商品とおすすめ商品を是非この機会にお試しください。

暑い季節の塩分補給と
熱中症対策に
ほどよい塩味とさわやかな
レモン風味のスティックゼリー
夏の塩分補給におすすめです



新商品 健康食品

塩レモンゼリー

15g×60本 4,860円(税込)

販売者／佐藤薬品ヘルスケア株式会社

7つの保湿成分と
3つの温泉成分でお肌しっとり
コラーゲン・ヒアルロン酸等
7つの保湿成分を配合し、
にごり湯タイプで3つの温泉成分



新商品 医薬部外品

草苺譜Ⅳ

1,100g 3,740円(税込)

販売者／富山めぐみ製薬株式会社

発熱や頭痛などのつらい症状に
小さなお子様から大人まで

発熱や頭痛などのつらい症状に効果をあらわす
アセトアミノフェンの錠剤が胃にやさしく、
眠くなる成分も未配合



新商品 第2類医薬品

アセトアミノフェンK錠

36錠 1,100円(税込)

販売者／小林薬品工業株式会社

毎日のお手入れで
ハリのある美しい潤う肌へ

シワ改善、シミ対策(美白)・肌荒れ
防止成分や潤いをキープするヒア
ルロン酸などを配合。着色料や香
料など無添加



おすすめ 医薬部外品

美潤肌(びじゅんき)

60g 5,500円(税込)

販売者／佐藤薬品ヘルスケア株式会社

弱った腸を活発にして
お通じをやさしく改善

腸を正常に保つセンソシド他、
5種類の生薬成分を配合した便秘薬。
フィルムコーティングを施した錠剤



新商品 指定第2類医薬品

ウェストンSプラス

120g 2,178円(税込)

販売者／小林薬品工業株式会社

弱った胃の機能の衰えを助け
胃腸を整えます

弱った胃の機能の衰えを助け、改善する
消化酵素剤・健胃生薬・整腸剤などを
配合した胃腸薬



新商品 第3類医薬品

パンクターゼ錠A

150錠 2,090円(税込)

販売者／小林薬品工業株式会社



北海道厚生農業協同組合連合会
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地
受付時間 平日 8:30～17:00



0120-99-41-93

JA配置薬
LINE公式アカウント



News & Topics from JA

JA 日誌

2025 9月

16日(火) 厚真神社例大祭、高卒採用試験 第1クール
新任常勤理事研修 ～17日(JAカレッジ)

17日(水)

18日(木) 日胆畜産共進会 乳用牛の部

19日(金) 第10回経営会議

20日(土)

21日(日) 秋分の日(祝)

22日(月)

23日(火) 秋分の日(祝)

24日(水)

25日(木) 第8回企画会議

26日(金) フィールコーポレーション・愛知経済連 産地訪問
大卒採用試験 最終クール、苫小牧厚真会(苫小牧)

27日(土) たるまえサンフェスティバル ～28日

28日(日)

29日(月)

30日(火) 新米贈呈 ～1日

2025 10月

1日(水) 課長研修(1回目)予定

2日(木) 年金友の会 日帰り旅行(牡警)
4地区専務会 視察研修(倶知安) ～3日

3日(金)

4日(土)

5日(日) あつまルシェ 2025
JAとまこまい広域杯 少年サッカー大会(早来はだしの広場)

6日(月)

7日(火) 苫民75周年記念式典(苫小牧)、厚真ダム落水式
JA共済 令和6年度全道LA・スマサバ大会(札幌)

8日(水) ホクレン肉牛市場

9日(木)

10日(金) 厚生連 理事会(札幌)、ホクレン乳牛市場
第42回東胆振産まつり ～12日(イオンモール苫小牧)

11日(土) 苫小牧消費生活展

12日(日)

13日(月) スポーツの日(祝)
4地区常務会 海外研修(インドネシア) ～17日

14日(火) 元職員親睦会 観楓会(登別) ～15日

15日(水) 第4回 共済連 運営委員会(札幌)

JA からののお知らせ

JAとまこまい広域杯 少年サッカー大会

当JAでは、地域住民の方へ「食」と「農」に対する理解を促進するため、
地元少年サッカークラブチームと連携して、下記日程にて開催いたし
ます。当日は農業・JA紹介(クイズ、いも拾い等)を予定しております。

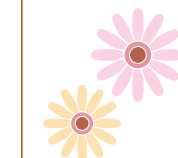
開催日時 令和7年10月5日(日)
午前8時30分(雨天決行、雷雨中止)

開催場所 安平町 はだしの広場(安平町早来大町143)



昨年の様子

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。



月日	地区	氏名	享年
8/3	安平町	森下 節子さん	78
8/18	安平町	嶋 敏之さん	99
8/21	安平町	宮本二三子さん	88
8/23	厚真町	渡邊 三枝さん	76
8/27	安平町	中道 弘子さん	90

ホクレン南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(9月)

令和7年8月6日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	28	718,413	1.175	2,078
	雌	11	599,091	1.055	1,863
早来	去勢	14	736,714	1.180	2,115
	雌	17	612,353	1.044	1,888
厚真	去勢	9	733,000	1.199	2,076
	雌	18	630,056	1.076	1,910
穂別	去勢	17	704,412	1.143	2,149
	雌	18	627,000	1.093	1,979
追分	去勢	6	750,500	1.230	2,081
	雌	4	618,750	1.009	1,940
とまこまい 広域	去勢	74	722,932	1.176	2,100
	雌	68	619,147	1.064	1,917
胆振管内	去勢	164	729,341	1.195	2,108
	雌	127	616,661	1.055	1,908
市場計	去勢	796	706,887	1.163	2,115
	雌	596	603,512	1.030	1,943